

画家のヒューマニズム ベラスケス、レンブラント、ゴヤの作品をめぐって

蝦名敦子

ベラスケスと同時代のレンブラント、両者を師としたゴヤに焦点をあて、彼らの代表作「ラス・メニナス」、「夜警」、「カルロス4世の家族」の作品を中心としてそれぞれの画家の人間性に対する主題化の違いについて検証した。その結果、これらの制作の背後には、画家の透徹した人間性への深い自覚があり、造形性の一方で人間性探求の姿勢があることを指摘。今日標榜する「生きる力を育む」教育について鑑賞教育の視点からの試論とした。